WAKAMONO×NPO
INTERNSHIP PROGRAM

WAKAMONO×NPO INTERNSHIP PROGRAM

ワカモノの夢

地域でつながるワカモノ × NPO インターンシッププログラム 2017 活動報告書

前よりちょっと、
素敵な自分に。

自分の中の世界が広がって、ドキドキする瞬間。

憧れの世界へ足を踏み込んだとき。
自分を貫き、突き進んでいるかっこいい大人と出会えたとき。
インターン先の方から団体の一員として接してもらったとき。

ふと、今までのインターンの日々を振り返ると、
「前よりちょっと、素敵な自分に」なっていることに気づくはず。

「ワカモノの夢」をテーマにした本書は、地域で活躍するNPO・市民活動団体と、
NPOでのインターンを通じて成長したワカモノのことが分かる本です。

目次

地域でつながるワカモノ×NPO インターンシッププログラム 2017 活動報告書

ワカモノの夢

プログラム趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

1 年の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

受入団体の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

アンケートの集計結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
ワカモノ× NPO は「夢への階段」

ワカモノ紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

先輩ワカモノの紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
先輩ワカモノの今
サポートメンバー紹介

活動報告書に寄せて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

※本書に掲載されている情報は 2018 年 3 月 31 日時点のものです。

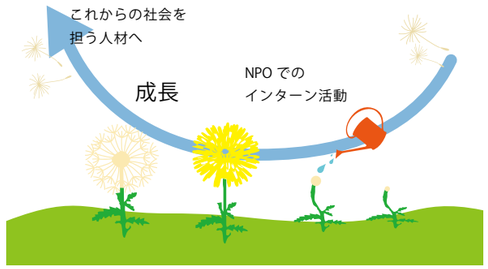
プログラム趣旨

自ら考え、選ぶことができる力をつけた人材を育てたい

このプログラムは、高校生～大学院生までのワカモノが約半年間、地域の NPO でインターンとして活動するプログラムです。ワカモノが自ら考え、自ら学び、自分の道を選ぶことができる力を身に付けることを目的に、2014 年度より実施しています。

プログラム 4 年目となる 2017 年度は、13 名のワカモノと 11 の NPO・市民活動団体が参加しました。

インターン活動での様々な出会いを通して得た学びや経験、そして自分が本当にやりたいことを見つめたワカモノの生の声をぜひご覧ください。



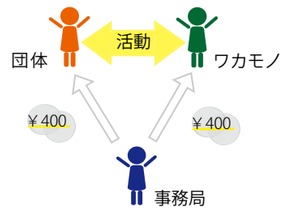
プログラム概要

対　　象：高校生～大学院生（概ね 30 歳未満）
活 動 期 間：2017 年 6 月 25 日（日）～ 2018 年 1 月 8 日（月）
費　　用：活動にかかる交通費や食費などは自己負担
活動先の団体：神奈川県内で活動する NPO・市民活動団体
（団体の例として、まちづくり、国際協力、障がい者福祉、農業、里山保全、青少年育成、環境保全、イベント運営などがあります。）

特徴 1

ワカモノコースと高校生コースの 2 つあります。高校生コースは活動時間を短縮したことで、活動と学業との調整をしやすくしています。

特徴 2



活動に参加するワカモノと受入団体の双方に、活動 1 時間あたり 400 円の助成を行います。

NPOとは？

NPO とは「Non-Profit Organization」の略称で、日本語では「非営利組織」と訳します。株式会社等の「営利」を目的とする組織とは異なり、収益を社会課題を解決するための事業に活用して取り組む組織です。社会の多様化したニーズに応え、社会や地域の課題解決に向け、様々な分野 (文化、環境、教育、まちづくり、国際、福祉等) で活動をしています。

また､NPO は「産学官民」の「民」の部分を担う存在として地域でも注目されています。最近では「協働」という新しい形のパートナーシップで、NPO をはじめ、企業、学校、行政等と連携する事例が増えています。また、災害などの際に力を発揮するボランティアをコーディネーションする役割も地域の NPO には求められています。

1 年の流れ

インターン期間中（6 月 25 日（日）～翌年 1 月 8 日（月））にはワカモノ同士の親睦を深めることに加え、インターン活動において必要な知識を積む目的として、毎月 1 回の定例会（計 6 回）と中間発表会、成果発表会が行われました。

1 年の集大成である成果発表会では、「NPO インターンだからできること」をテーマに、ワカモノ一人ひとりがインターンで得た成果・団体への感謝を伝え、インターン活動を締めくくりました。

このページでは各定例会を含む本プログラムの 1 年の流れを紹介します。

6 月
面談

事務局とじっくり面談を行い、チャレンジしたいこと、取り組んでみたいことの希望を聞きます！希望を踏まえた上で、受入先の団体を決めます。

面談

7 月
オリエンテーション＆インターン活動開始

他のワカモノや受入団体の方との初の顔合わせ。インターンでの目標設定をします。オリエンテーション翌日からインターンの活動期間となります！

事前研修（高校生向け）

「お題トーク」を通じて自己紹介したり、インターン宣言を表明し、自分の目標を定めました。

事前研修

8 月
第 1 回ワカモノ定例会

テーマは「自分の未来へつなげるための目標作り」。将来、どんな自分になりたいか、そしてそれを実現するために必要な行動を考えて、発表しました。

インターン活動の様子 1

第 2 回ワカモノ定例会

今回のテーマは「個性の発信」。2 ～ 3 人のチームになって行う「模擬ラジオ」のワークを行いました。定められた時間内で自分の個性を伝えたり、自分の言葉で団体紹介をしました！

インターン活動の様子 2

9 月
ラジオ出演（随時）

コミュニティ FM 局「レディオ湘南」内のコーナー「NPO café」にてラジオに生出演！思い思いにインターン活動の内容や自分が目指していること等を話しました！

ラジオ出演

10 月
第 3 回ワカモノ定例会

今回のテーマは「これまでの活動の振り返り」。活動で印象に残ったエピソードを踏まえて今後にどう活かしていきたいかをペアになって発表し合いました。

11 月
中間発表会

「自分自身をプロデュースしよう」をテーマに、活動先での経験や今後の目標などを自由に発表しました。紙芝居を使ったり、スライム作りをその場で実践したりと、ワカモノたちの個性が爆発していました。

中間発表会

12 月
第 4 回ワカモノ定例会

今回のテーマは「チームで作り上げる楽しさを知る」。2 チームに分かれて本プログラムの「キャラクター」を作りました。名前や設定まで細かく決めて、個性溢れるキャラクターが完成しました。

第 5 回ワカモノ定例会

今回は「成果発表会に向けての話し合い」を中心に行いました。司会進行をワカモノに任せ、成果発表会に向けての話し合いをし、最後に次回までに取り組むことの目標を立てて、定例会は終了しました。

ワカモノ定例会

第 6 回ワカモノ定例会

今回は「団体について自分の言葉で紹介しよう」というワークと、成果発表会の話し合いを行いました。話し合いでは、成果発表会当日を 1 ヶ月後に控え、緊張感のある良い定例会になりました。

ワカモノ定例会

1 月
インターン活動終了

2 月
事後研修（高校生向け）

今回のテーマは「これからの自分に活かせるタネを探そう！」。自分のインターンでの経験・得たものを振り返り、これからの夢ややりたいことにどう活かせるかを考えました。また、「プレゼンのコツ」を踏まえ、成果発表会での「自分らしい発表」の内容や方法を考えました。

成果発表会

成果発表会

成果発表会

どんな発表会にしたいか、ゼロからワカモノが中心となって企画から立案まで行いました。今回は「NPO インターンだからできること」をテーマに 1 人 5 分間で発表し、当日は 70 名ほどの参加者がありました。

発表以外にも、緊張をほぐすために絵を使った伝言ゲームやワカモノの自己紹介、交流会など盛りだくさんの内容となり、終始和やかな雰囲気に包まれていました。ワカモノ一人ひとりが、このプログラムで感じたことを自分の言葉で伝え、インターン活動を締めくくりました。

受入団体の紹介

2017 年度は 11 の NPO・市民活動団体にワカモノを受け入れていただきました。

ここではワカモノを受け入れてくださった団体の活動紹介と、実際にインターンとして活動したワカモノからみた団体のオススメのポイントを紹介しています。

受入担当者の皆さんのお顔から充実した雰囲気が感じ取れたなら、それはきっと参加したワカモノのおかげかもしれません。

※掲載している団体情報は 2017 年度エントリー時の情報です。

文化：地域文化の保全、スポーツイベントの補助など

子ども：レクリエーション、保育、学習サポートなど

まちづくり：街の清掃活動、地域活性イベントなど

国際：国際協力、留学生・外国籍の方への支援など

認定 NPO 法人
地球市民 ACT かながわ／ TPAK

与えるのではなく、立ち上がる力を子ども達に

ワカモノ：横田くんからのコメント

たくさんの人と出会える！その中で自分の人生に身になるモノ・コトを取捨選択し、自分の求めるものを蓄えることが出来ます！！

アジアの途上地域の子ども達が一人でも多く教育を受け、幸せで明るい未来を自ら切り開けるよう、1993 年よりタイ、ミャンマー、インドにおいて少数民族の子どもと女性への自立のための支援活動を行っています。日本国内においては、思いやりある人材の育成を行っています。

認定 NPO 法人
藤沢市民活動推進機構

「つなぐ・支える・うごく」NPO を支援する NPO

ワカモノ：山口さんからのコメント

このプログラムを運営している団体なので、他のワカモノが活動している団体についても知ることができます！

市民活動団体等への活動支援事業を通し、市民活動の推進とまちづくりに寄与することを目的に活動しています。まちの活性化のために、NPO や行政、企業など他セクターとの連携をとりながら、より効果の高い公益事業を展開する団体の支援と関連事業を行っています。

NPO 法人
湘南遺産プロジェクト

湘南の魅力を未来まで残していきたい

ワカモノ：中村くん・太田さんからのコメント

湘南エリアにとても詳しいので色々教えてくれます！様々なキャリアを持つ方々がいらっしゃるので、その人のお話を伺えるのも面白いです！

湘南地域において、その歴史や文化を物語る「モノ」や「コト」の中から、ぜひ未来に残していきたい地域のタカラを、皆で探し、見つけて、選び、守り、育てていく活動をしています。湘南の未来につながるブランディング事業を目指して取り組んでいきます。

NPO 法人
青少年サポート協会

一人、ひとりの目線に立ち、子どもとその家族が笑顔で元気に暮らせる毎日を目指して

ワカモノ：篠原くんからのコメント

生徒の成長に全力で応援できる環境に触れることができます。子どもと関わることが好きな人、将来、教師や福祉の仕事に就きたい人、楽しいことが好きな人に是非オススメしたいです。

不登校やひきこもりなど様々な課題を抱えた青少年とその家族を対象としたフリースクールとフリースペース「森の仔じゆうがっこう」の運営や、体験学習を通した青少年の健全育成を目的とした活動をしています。また、生活困窮世帯の子どもを対象とした学習支援や居場所づくり、生活相談も行っています。

NPO 法人
横須賀創造空間

横須賀・三浦半島に「人を呼ぶ」「魅力を発信する」「人々の交流を促す」

ワカモノ：松本さんからのコメント

ただ、学ぶだけではなく地域の美味しいものを食べたり、そこで有名なものや文化に触れられるため非日常感が味わえます。

NPO 法人 横須賀創造空間は、横須賀・三浦半島に「人を呼ぶ」「魅力を発信する」「人々の交流を促す」ために活動する団体です。現在は、ヨコスカテラスという場の運営を中心に、ジャズや地元を活かした映画、高校の居場所づくりと、様々な人が様々な場を生み出すことを支援しています。

藤沢市民まつり実行委員会

地球と暮らす・私たちにできること

ワカモノ：結城さんからのコメント

生徒の成長に全力で応援でき基本的にキャラが濃い！話していて楽しい人ばかりで、ひたすらに楽しいです。

今年で 44 回目となる藤沢市で開催されている最も大きなイベント、「藤沢市民まつり」の企画・運営をする団体です。

商工会議所、商店街連合会、藤沢市、NPO、市内 4 大学の学生と、様々なメンバーが主体となり活動をしています。

NPO 法人
ハーモニーインターナショナル

自分を尊重できる国際人を育てます！

ワカモノ：児玉くんからのコメント

とにかく子どもたちが元気！子どもたちに振り回されることなく 1 日を終えることができたら 100 点！

多文化意識・英語・リビングバリュー（ユネスコ推薦道徳教育）を 3 本柱とし、様々なプログラムやイベントを通し提供しています。0 歳から大人までが参加し、当会ならではの、体験できるスクールも開催しています。

昔の遊びを伝える会

平成の子どもたちに昭和の遊びを伝えたい

ワカモノ：宮澤さんからのコメント

アットホームで優しい人ばかりなので、シャイな人でも活動しやすいです。また、人に教える機会が多いので、わかりやすく人に伝えたい人にはぴったりです！

メンバーが、今の子どもたちに昔の遊びを継承していく活動をしています。

こま、けんだま、ベーゴマ、おりがみ、おてだま、あやとりなど、イベントを通してたくさんの昔の遊びを子どもたちに伝えています。

NPO 法人
湘南スタイル

「食と農」によるコミュニティ経済社会を実現させたい

ワカモノ：原さん・鳥居さんからのコメント

アットホームな雰囲気！様々なバックグラウンドを持った方々がたくさんいます！また、「農」と「食」がテーマなので、たくさん食べられます（笑）

地域資源を活用したコミュニティビジネスを展開しています。市民・産業・行政をつなぎ地域活性、産業振興を図ること。行政との協働によるポータルサイトの運営等を行っています。

湘南まちいくプロジェクト

中高生一人ひとりが「まちのつくり手」になって欲しい

ワカモノ：仲松さんからのコメント

とても優しい人ばかりです！！

まちづくりについて考えたり、藤沢のことを学びたい人にぴったりです。

藤沢・鎌倉を中心とした湘南地域の中高生を対象に、地域や社会で起こっていることと向き合い、参画することをめざした取り組みを幅広く展開する、大学生・院生や若手社会人などによる NPO。

活動を通して、未来の「まちのつくり手」を育んでいきます。

NPO 法人
まちづくりスポット茅ヶ崎

住み続けた人も、住み始める人も、共に未来を描く

ワカモノ：塩谷さんからのコメント

多世代の人と交流できます。いろんな職業の方と出会う機会が多いです！

50 年続く団地の建替を背景に移り変わる茅ヶ崎市南西部を拠点にしています。

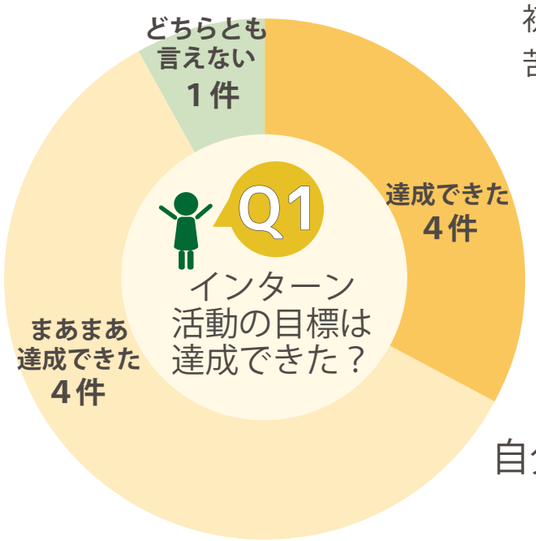
地域や世代をつなぐための交流の機会の提供、住民の自発的な活動の支援、豊かな環境と景観の形成、持続可能なコミュニティづくりの推進を展開しています。

ワカモノ × ＮＰＯは「夢への階段」

ワカモノ×NPO に参加されたワカモノと受入担当者の皆さまにアンケートを実施しました。本インターンを通じて、ワカモノがそれぞれの目標に向かって前進し、理想の自分に近づいていると実感していることがわかりました。受入担当者の皆さんも、ワカモノが成長していくのを実感されています。ぜひ、あなたもこのプログラムに参加しませんか？

ワカモノ
受入団体

Q1 インターン活動の目標は達成できた？



n=12
※「あまり達成できなかった」「達成できなかった」回答は 0 件。

初めてやることが沢山あり、
苦手なことにも挑戦できた。
（大学 3 年生・自己採点：70 点）

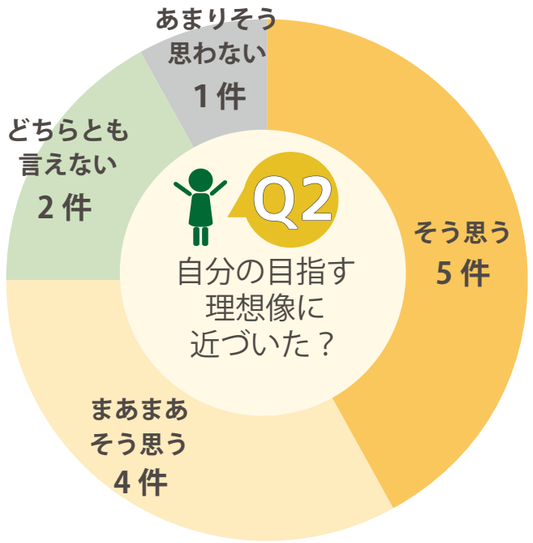
成果発表会が成功した。（高校 3 年生・自己採点：65 点）

**与えられた仕事について、
使命感・責任感をもち
果たすことができた。**
（高校 1 年生・自己採点：70 点）

自分の目標を達成することができた。
（高校 3 年生・自己採点：90 点）

「一緒に活動するのが楽しみ」といわれた。
（大学 2 年生・自己採点：70 点）

Q2 自分の目指す理想像に近づいた？



n=12　※「そう思わない」回答は 0 件。

自分で物事をするようになった。（高校 1 年生）

価値観や考えのロジック、　（大学 3 年生）
コミュニケーションの方法が変わった。

**知らない人と話すことが
苦手だったが改善された。**
（高校 1 年生）

行動力が付いた。（大学 3 年生）

以前より積極的になった。（大学 2 年生）

Q3 受入担当者から見たワカモノの変化 ※カッコ内は受入団体の活動分野を指します。

将来の目標を見つけることができた。（国際）

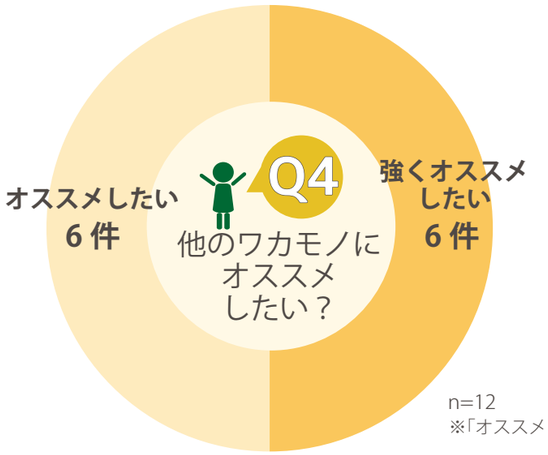
活動を振り返り、次に繋げる力をつけた。（まちづくり）

**視野が広がった。
自信につながった。
将来を考えるきっかけになった。**
（国際）

実際に行動しなければ社会は変化しない、
を体感したようだった。（まちづくり）

するべきことを考えて
行動するようになった。（子ども）

Q4 他のワカモノにオススメしたい？



n=12
※「オススメしない」回答は 0 件。

Q5 プログラムに参加したいと思っているワカモノへメッセージ

不安もありましたが全然大丈夫でした。
（高校 1 年生）

ワカモノ × NPO は
キッカケやチャンスを作ってくれる。（高校 1 年生）

これからの人生変わると思います。（大学 3 年生）

思ってる以上に得るものが大きい。
（大学 3 年生）

NPO 団体の一員として活動するという、
普段は体験できないことができる。
（高校 1 年生）

**ワカモノ×ＮＰＯはまさに「夢への階段」です。ワカモノが成長していく楽しい場がここにあります。
各ワカモノがどんな「夢への階段」を登ったか？　詳しくは次のページから !!**

人にワクワクを与えられる人間になりたい

横田（よこた）　純一（じゅんいち）（東海大学 政治経済学部 政治学科 3 年）

認定 NPO 法人 地球市民 ACT かながわ／ TPAK　国際

活動前の自分と比べると今では「対話力」の成長を実感しています。人とコミュニケーションをとるのは元々大好きでしたが、老若男女問わず様々な人と会話を通してお互いの内面を深掘りし、対話からその人の考えを引っ張り出す事が得意になりました。
「何故この人はこの考えに至ったのだろう？」と不思議に思った事でもじっくりと対話してみると、案外簡単に引き出せちゃうものですよ！

TPAK でのインターン活動初日に真っ先に取り組んだことは…カエルを磨くことでした（笑）カエルと言っても本物ではなく、タイの職人さんが手作りしたカエルの形をした楽器のことです。このカエルはフェアトレード品としてバザーやお祭りなどで TPAK が販売しています。木彫りで表面にニスが塗られているのですが、その表面を磨き上げると美しい色合いと音色を奏でてくれます。今では可愛いカエルの虜です。

小学生の頃の夢はパイロットでした。高校生の頃の夢はミュージカル俳優でした（笑）いくつになっても夢があるのは素晴らしいことですね。そんな今の夢は【心のインフラ】に携わる社会人になりたいです。ワクワクする気持ちを人々に届け、社会に無くてはならない存在。そんなものを提供できる大人になりたいです。パイロットもミュージカル俳優も、原点は「人にワクワクを与えたい」ここから来てるのかも…？？

将来の夢：　心のインフラに携わる社会人になる

活動内容：　商品の整理、イベントでのブース出展の手伝い

今回のインターン活動で NPO が社会に与えることのできる影響力とパワーを目の当たりにし、NPO だからこそ発信できる市民活動の文化や楽しさ、ワクワクについて考える機会が多かったです。これらの事をしっかりと自分の中で整理した上で、社会にどのような楽しさを与えることが出来るのか、また自分にはどのような方法で貢献出来るのか、より深掘りして考えていきたいです。

「失敗は成功のもと」もちろん失敗は無い方が良い事に変わりは無いのですが、失敗したからこそ得る事の出来る発見もあります。たくさん失敗しても多少は許されるのはワカモノの特権です。（笑）学生の間に沢山のコトにチャレンジし、たくさんの失敗と発見をしてください。そしてその発見を次につなげてより良い社会を一緒に作り上げていきましょう！頑張ろうワカモノ！！

経験したことがないことをやりたい

結城（ゆうき）　日夏乃（ひなの）（私立高校 3 年）

藤沢市民まつり実行委員会　まちづくり

活動を通して、自分だけでなく、その計画や仕事に関係する相手のことをしっかり考え相談する必要性を学びました。今までの私は自分本位で自己満足のみを追い求めていました。インターンで藤沢市民まつりに関わる人と活動するうちに、相手の都合や心情を汲む必要があると実感しました。自分で考えるだけでは不十分なときもあるので、対話が求められていることに気付くことができました。

今だから言える！というわけではないかもしれません。ただ、ひとつ挙げるとすればやっぱりこれです。藤沢市民まつりの本番数日前の、確か夜のことです。なんの作業のために集まったのか忘れましたが、それは大して重要ではないので飛ばします。本番に向けて準備をしていた中、出前のピザを取り、暗い室内でピザを届けにきたお姉さんを戸惑わせて、薄暗い中メンバー 4 人でピザを食べたことです。

将来は国際機関に勤めたいと思っています。国内外問わず議論と解決、改善をしなければならない問題や課題はたくさんあります。私の持っている力が、それを必要とする人たちのためになるなら、手を差し伸べたいからです。以前は「国際機関で働きたい」と、ぼんやり意識していただけでした。しかし大学に入学し、似た夢を持つ友達に出会い、この夢は明確な目標に変化しました。インターンで培った力を、この目標の実現のために最大限に使いたいと思います。

将来の夢：　国際機関に勤めたい

活動内容：　藤沢市民まつり秋葉台会場企画全般の企画運営、野外ステージの企画担当

インターンの活動を通して、私には自覚しているよりもっと力があるのではないかと自問自答するようになりました。やろうと思えば実現できた上に、それをサポートしてくれるメンバーがいたことが、大きなきっかけです。インターンで高校では味わえない経験をし、今まで活かせなかった力を使う機会を得ることによって、様々なことを疑問に思うことや、自発性を高めることに繋がりました。

高校生だった私が初めてこのインターンを紹介されたとき、「NPO でのインターン」はなんだかしっくりきませんでした。何をするんだろう？何を得られるんだろう？と疑問に思いました。しかし、様々な種類の NPO の中から興味あるものを選び、活動できる機会はなかなかないと思います。インターンで何を得られるのか、それは個人次第です。何もしなければ何も得られないけれど、身を乗り出せば欲しいものは手に入るところです。

Q1：活動を通して、気付いた・成長した！と思うことは？　Q2：今だから言える！活動中のエピソードを教えて！　Q3：将来の夢は？
Q4：インターンの活動を通じて、夢にどう近づいた？　Q5：（読者に向けて）メッセージをお願いします！

人とのつながりを感じられることが「食」の良さ

原　明里（文教大学 国際学部 国際理解学科 3 年）
NPO 法人 湘南スタイル　まちづくり

Q1

一番の気づきは物事を相手の立場になって考えることです。活動を通して何度かレポートを作成していましたが、初めは自分が書きたいように書いていました。しかし、それだと読み手に伝わっていないこともあり、意味がないということに気づきました。「伝える」ということは難しいけれど、自分が受け手の立場になった時どう感じるかを常に考えて、意識することが大切だということに気づけたのが一番の成果です。

Q2

ふれあい畑塾のランチイベントに参加した時、頂いたお料理の中にナスが入っていました。実はナスが一番嫌いな食べ物なんです。でもまだ始まって間もない時期だったことと、畑塾の皆さんが大切に育てて料理したということも頭にあり、食べないという選択肢はありませんでした。素材の味を活かした料理法だったので、その時のナスが今までで一番美味しかったです。このナスが美味しかったという記憶を上書きしないように、その後もナスは食べないようにしています。

Q3

自給自足の生活をすることが今の私の夢です。湘南スタイルでの活動を通して農業への関心をより深めることができました。そして、この先も自分で作ることの楽しさや大変さを自然と共に感じながら生活したいとおもいます。また、それを次の世代や異なる文化の人とも共有し、人や地域とのつながりを大切にしながら生きていきたいです。

将来の夢：　自給自足の生活をする

活動内容：　活動のレポート作成、「食」にまつわるイベントの手伝い

Q4

「農」と「食」の楽しさを知ることができました。生きる上で食べることは必要不可欠ですが、ただ食べ物を口に運ぶだけでなく、その過程で自然の素晴らしさやありがたみ、人とのつながりを感じられることが食の良さだと思います。インターンを通してこの様なことを考えるきっかけができたので、これからも自分のなかで色んな経験をし、理解を深めていきたいと思います。

Q5

不得意なことに挑戦できる機会は普段の学校生活ではなかなか見つけられないと思います。だからこそ、苦手なことに思い切って挑戦して、できるようになった時の喜びをぜひ皆さんにも味わってほしいです。将来自分が何をしたいのかわからないと思っていても考えて、探し続けることで新しい自分に出会えると思います！

もっと経験を積んでから夢は決めていい

鳥居　亜実（私立高校 3 年）
NPO 法人 湘南スタイル　まちづくり

Q1

自分の意見を伝えることも大切ではありますが、他の人の意見を聞くことの大切さに気がつきました。他の人の意見を聞くからこそより良いものができると思います。また、私はコミュニケーション能力を身に付けたいと思いこの活動に参加し、以前より自分から話すことができるようになったと感じています。常に、話している相手に興味を持つことで会話を繋げるよう心がけています。

Q2

私は高校 3 年生でこのインターンシッププログラムに参加したため、正直勉強が忙しくなかなか活動に参加することができませんでした。しかし、この活動に参加させていただいたからこそ得られるものがたくさんあり、参加して本当に良かったと今は思っています。
得られたこととしては、一足先の社会勉強、様々なバックグラウンドを持った人と活動ができるという経験などが挙げられます。

Q3

半年ほど前まで、私には一つの夢がありました。しかし、今は正直、自分が本当にやりたいことがわかりません。なぜなら、この活動を通じて私が今まで知らなかった職業を知ることができたからです。
よって、私はここで自分の具体的な夢を語ることはできませんが、今の夢、もしくは目標は、自分が本当にやりたいことを見つけるための経験を積むことです。

将来の夢：　本当にやりたいと思える夢を見つける

活動内容：　活動のレポート作成、「食」にまつわるイベントの手伝い

Q4

インターン活動を通じて、まだ自分がやりたいことを決定しなくても良いのではないかと思ったので、具体的な夢がありません。だからといって、この活動で私は自分の夢から遠ざかったのはないと思います。なぜなら、この活動を通じ、本当の夢を見つけると言う目標ができたからです。そのため、今は抽象的である夢を、これから始まる 4 年間の大学生活を通じて具体的な夢にしたいと考えています。

Q5

私は受験生のため、勉学との両立に苦労しました。しかし、私は高校 3 年生 / 受験生という理由で自分がやりたいことを諦めるのはもったいないと思います。そのため、私は受験生だから…部活が大変だから…などという理由で諦めず、今やりたいことに挑戦することが大切だと思います。

Q1：活動を通して、気付いた・成長した！と思うことは？　Q2：今だから言える！活動中のエピソードを教えて！　Q3：将来の夢は？
Q4：インターンの活動を通じて、夢にどう近づいた？　Q5：（読者に向けて）メッセージをお願いします！

高校生事務マスターを目指して

山口　比奈子（私立高校３年）

認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構　まちづくり

Q1

以前よりも周りへの気遣いができるようになった、と親から最近言われます。私は一人っ子なので今までは自分のことだけを考えて行動していましたが、最近は周りの人のことを考え、また、彼らの気持ちになって動けるようになったな、と自分でも感じています。そう言った点で社会的に大きく成長することができたと思っています。

Q2

私はよく放課後に推進センターで活動をしていたのですが、その時に藤沢市民まつり実行委員でインターンしている結城さんやほかのセンターの方々と一緒にカレーを食べたのがとてもいい思い出になっています。放課後ということでとても空腹でしたし、また普段一緒に活動している方々とコミュニケーションを取りながら食べるご飯はとてもおいしかったです。

Q3

私の夢はアメリカで人権弁護士として活動することです。小さい頃から不平等なことが嫌いだったこともあり、弁護士になりたいという気持ちは以前からありました。アメリカで活動したいという思いは、アメリカにおける人種差別や性差別に関する報道を目にする中で抱きました。アメリカのロースクール卒業後は弁護士としてこのような弱い立場にいる人々の権利を守っていきたいです。

将来の夢：　アメリカで人権弁護士として活動する

活動内容：　法人書類にまつわる事務作業、交流イベントなどの運営スタッフ

Q4

弁護士の仕事内容は気の遠くなるような作業ばかりです。私はこのインターンの中で事務の仕事をメインにこなしたお陰で、集中力が長く続くようになりました。私が担当した仕事の多くは同じ作業を繰り返すものが多かったのですが、「失敗してはならない」と常に気を張っていました。ここで得た、この集中力は将来弁護士になった時の仕事に大いに役立つと思います。

Q5

このインターンプログラムは誰もが自分の居場所を見つけられる場所です。また一般的な学生としての生活の中では学べないようなことが多く身につく、素晴らしい活動です。今は参加を迷っている方でも、思い切って参加することをお勧めします。必ず自分にとって大きな学びを得られると思います。

Q1：活動を通して、気付いた・成長した！と思うことは？　Q2：今だから言える！活動中のエピソードを教えて！　Q3：将来の夢は？
Q4：インターンの活動を通じて、夢にどう近づいた？　Q5：（読者に向けて）メッセージをお願いします！

何事も本気でやる！

篠原　絃希（東海大学 政治経済学部 政治学科３年）

NPO 法人 青少年サポート協会　子ども

Q1

私が成長したことは自分から動くということです。私のインターン活動先は主に中学生の学習支援、放課後の居場所づくりを行っています。はじめは生徒に全く声をかけることができなく、躊躇していました。しかし、生徒も緊張しています。私は自分から声をかけることを最初の１～２か月間行いました。生徒との信頼関係を構築し、「げんちゃん、教えて」と生徒から声をかけてくることもありました。自分から話しかけたり動いてみることで、生徒の笑顔が増えました。

Q2

学習支援が終わり、スタッフ間でミーティングをしている際、「げんちゃん、最近どうなの？成果発表会とか大丈夫？」と聞いてくださいました。私は「正直、不安です。成果発表会も成功するかわからないです…」とお話しました。すると、「げんちゃん、いい経験しているよ。大事なことはワクワクする経験を沢山すること。勉強だけじゃない面白い経験できるよ」と言われ、自分もこんな経験してみたいと思いました。

Q3

私の夢はキャリアコンサルタントになり、求職者に仕事をする楽しさを伝えられる人になることです。私自身、初の飲食店のアルバイトで壮絶ないじめにあい、うつ状態になりかけました。そこで、出会ったのがこのプログラムです。自分は一人の人間として認められ接してもらえることが嬉しかったです。「フリーター」「ニート」など、肩書きではなく一人の人間として尊重する、仕事の楽しさを伝えられるキャリアコンサルタントになりたいです。

将来の夢：　キャリアコンサルタント

活動内容：　中学生の学習支援、放課後の居場所づくりのサポート

Q4

活動中には夢に本気で向かっているスタッフの方を目にしていました。

スタッフの方は本気で、団体の目標に向かい取り組んでいました。私はそれを見て、「仕事をする人はかっこいいな。私も楽しく本気でやりたい」と思いました。仕事の素晴らしさを伝えるために、インターン活動も、成果発表会のプレゼン内容などすべて本気で行いました。本気で行うことが大切だと感じました。

Q5

何か自分の中でこのままでいいのかと感じている方、学校、バイトの生活に変化をつけたい方、インターンシップに興味を持っている方。この活動は、団体のスタッフとして活動できます。成果発表会はワカモノで協力し、企画して運営し素晴らしいステージにお客様を導きます。人生の財産に学生時代の貴重な経験になります！高校生、大学生のワカモノのみんな。一度説明会に来てみてはいかかでしょうか。

未だ踏み入れたことのない領域へチャレンジ！

児玉（こだま）　諒大（りょうた）（湘南学園高等学校 1 年）

NPO 法人 ハーモニーインターナショナル　国際

Q1

コミュニケーション能力を上げることを目的にプログラムに参加したので、会話の仕方には特に気を配りました。活動をしていく上で会話の中で必要なのは適度な相槌とアイコンタクトだということに気付きました。初歩的なことで気にしていない人も多いですが、これがあるのとないのとでは印象もそうですが話し手にとっても話しやすい人になれます。また、自分が話し手になる時もなるべく人の目を見て話すように変えてみたところ、相手との会話のテンポ等も弾みました。

Q2

幼い頃から、男はおバカさんで元気に溢れています。レッスン中、自分が子どもたちの面倒を見ている時の出来事です。初対面の頃はなかなか本性を見せてくれなかった男の子たちでしたが、数日経つと、まぁ大変、走り回り暴れまわりです。それに比べて、女の子たちは大人しくレッスンを受けて、さらには男の子たちを注意してくれるまでした。まだ、3・4 年しか生まれて立っていないのにもかかわらず男の子と女の子でここまで変わってくるものなのでしょうか…。

Q3

幼稚園生の頃はホンダの ASIMO に一目惚れしてロボット博士に、そして、小学生の頃はうちの愛犬を救うため獣医になると決めていました。しかし、どちらも数学の力が必要な世界。中学校に進学した頃には自分と向き合い、それらの夢は諦めました。でも、夢がなくなったわけではありません。今は何か人を助ける仕事に就きたいと思っています。人を助ける仕事は世の中にいっぱいあると思うので自分に出来そうな人助けを探していきたいです。

将来の夢：　何かしら人を助ける仕事に就きたい

活動内容：　レッスンやウィンタースクール等のサポートや準備

Q4

仕事は主にサポートだったので自分が伸ばしたいスキルを伸ばすことのできる良い経験でした。気の配り方やどうしたら子どもたちは喜んでくれるのかを常に念頭においてサポートをしてきました。このように「もし自分が」と仮定して想定し、物事を考える力は人の役に立つことにおいて有効なスキルであって、身についたことは今後の自分にプラスに働くはずです。このスキルを駆使して、カリスマサポーターを目指していきたいです！

Q5

経験は積んだ者勝ちです！経験は決して無駄にはなりません。様々な視点から物事を捉え、考え、行動することができます。また、自分の強みにもなるのでどんどん経験を積んで自らを未だ踏み入れたことのない領域へチャレンジしてください！

勇気を出して、新しい一歩を踏み出せるようになった

仲松（なかまつ）　茉奈（まな）（日本大学 生物資源科学部 国際地域開発学科 2 年）

湘南まちいくプロジェクト　まちづくり

Q1

大きくわけて 3 つあります。一番は人に関心を持つようになったことです。周りのメンバーを見て色々と学ぶことがありました。二つ目に、今まで以上に何かにチャレンジすることに抵抗がなくなりました。これまでは挑戦する前に色々と考えてしまい、あきらめることもありましたが、そのようなことはなくなったと思います。最後に、始まる前と比べ、コミュニケーション能力が上がったと思います。

Q2

思い出に残っているエピソードは二つあります。一つは夏に行われたプレイベントです。藤沢のまちの魅力を発見すると同時に、自分の課題を見つけることが出来ました。二つ目は活動して半分くらいたったときのことで、あるメンバーの方に「なかまなちゃんが積極的に発言するようになって嬉しい。今後一緒に活動していくのが楽しみ」といわれたことです。

Q3

まだ漠然とはしていますが、プロ野球に関係する職業につけたらいいなと思っています。このインターンが終わったあとに、ある球団でインターンシップの募集があり、応募した結果、合格することが出来ました。まだ研修の段階ですが、的確なアドバイスをくれる先輩や、とても優しく、自己中心的な判断はせず、周りのメンバーのことを考えて行動する同期が多く、とても刺激を受け、自分にとってためになるプログラムに出会えたと感じています。

将来の夢：　プロ野球に関係する職業に就く

活動内容：　中高生が活動しやすいようにサポート、企画、パンフレット作成

Q4

1 年生の頃からインターンをしたいと思いつつ、行動をあきらめていた私でしたが、大学の先輩から誘いを受け、2 年生の時にこのインターンに応募しました。このインターンを通して、インターンに応募することに抵抗がなくなり、今の球団インターンにためらいなく、応募できたのかなと思います。大好きな野球に関われることが本当に幸せです。

Q5

私自身そうだったように、インターンに興味はあるけど、やる勇気がない人やボランティアに興味がある人はぜひ説明会だけでも足を運んでみてください。色んな団体の中から素直に自分が興味がある団体を選ぶことが大切だと思います。

Q1：活動を通して、気付いた・成長した！と思うことは？　Q2：今だから言える！活動中のエピソードを教えて！　Q3：将来の夢は？
Q4：インターンの活動を通じて、夢にどう近づいた？　Q5：（読者に向けて）メッセージをお願いします！

たくさん考えて、進路を見つけられた

中村（なかむら）　駿（しゅん）（湘南学園高等学校 1 年）
NPO 法人 湘南遺産プロジェクト　文化

自分はインターンを先生にすすめてもらい、始めました。最初は自分の進路を見つけるためにインターンを始めましたが、藤沢市民まつりに出店した際に湘南遺産のブースへ誘致するという役だったのですが、なかなか知らない人に声をかけられず、それも自分の課題ではないかと思いました。最終的にこの課題は解決できなかったような気がしますが、自分の中では自分からでなくても話せるようになったので、少しは近づいたのかなと思いました。

実は忘れていて、活動を 1 度すっぽかしてしまいました笑。また、テスト期間に入った時に 1 回もメールを見ないようにしていたのですが、その時に団体の方から沢山連絡が来ていて、事務局の西尾さんからも「返信してね」という連絡を受けました笑。だけど、湘南遺産の人は優しく、次に失敗しなければいいよと言ってくれました。このように自分は他人に迷惑をいっぱいかけていましたが、そんな自分を支えてくれた方々にとても感謝しています。

将来の夢：　地域の特徴に合わせたインフラ整備の設計をする

活動内容：　湘南地域のトマトについてリサーチしてまとめる、イベントの手伝い

自分は普通の人と共通する趣味がなく、先程書かせていただいた自分の将来が定まるかとても不安でした。しかし今は、都市工学系統に行きたいなと具体的な進路まで決めることができました。将来、自分は各地域のさまざまな状態や地域の特徴に合わせたインフラ整備の設計ができたらいいなと思ってます。
ちなみに全然関係ないですが、幼稚園の年少くらいにバナナになりたいと七夕に書いたそうです笑。

何回も述べてるように自分は将来の進路（夢）を決めるため、このインターンに参加させていただきました。インターンの中で様々なことを考え、感じ、このような結論にたどり着いたのだと思います。このように自分にとってはこの半年間進路を決めるなど、将来に対して一歩足を踏み込むことができたのかなと思いました。

正直、活動を始める前はとても不安でした。なぜなら年上の大学生とあまり話したことがない上、自分の日本語力だと何も通じないと思ったからです。（今までの文章もなんか変だと思いますが）しかし、インターンをちゃんとやりきることができました。それは他のワカモノ、サポートメンバーや事務局の方々、そして、インターン先の団体がサポートしてくれたからです。インターンをやろうと悩んでる人はまず、始めましょう。

Q1：活動を通して、気付いた・成長した！と思うことは？　Q2：今だから言える！活動中のエピソードを教えて！　Q3：将来の夢は？
Q4：インターンの活動を通じて、夢にどう近づいた？　Q5：（読者に向けて）メッセージをお願いします！

住んでいるまちを更に好きになれた

太田（おおた）　夏美（なつみ）（文教大学 国際学部 国際理解学科 3 年）
NPO 法人 湘南遺産プロジェクト　文化

担当者の方からお話を伺ったり、イベントに参加をするといったことで、湘南のまちの歴史や文化を知ることができました。住んでいることに誇りを持つことができ、さらに好きになれました。また、アンケート調査や、和菓子屋さんへの聞き取り調査を行った結果、大勢の前で話すことや大きな声を出すことに対する苦手意識が薄まりました。度胸がついて、人と関わることが苦手でなくなったように感じます。今後も湘南を知っていきたいと思っています。

推進センターで成果発表会の受付係の作業を終えて帰るときに、同じ係の原さんと一緒に電車に乗って発車を待っていたら、向かい側の席に受入担当者の沖本さんが座っていたことがとても印象深く、思い出されます。3 人とも最寄り駅が一緒だったので、帰る前にと、沖本さんからご飯をごちそうしていただきました。おなかも心もいっぱいになりました。沖本さん、その節はどうもありがとうございました。

将来の夢：　一人旅をして様々な国の文化に触れる

活動内容：　湘南地域の和菓子などのアンケートや聞き取り調査、イベントの手伝い

旅行です。できれば、一人旅をして様々な国の文化に触れたいです。まずは、まだ行ったことのない国を訪れて観光や語学を学びたくて、今はスペイン語圏の国に行きたいです。また、観光地ではないところにも訪れてみたいです。地元の人がおすすめするような、パンフレットには載っていない場所であったり、その国でしかできないことに挑戦したりしてみたいです。パスポートをスタンプで埋め尽くしたいです。

受入団体の方、事務局、ワカモノ、友だちなど本当にたくさんの人と関わってインターンシップを行ってきました。中には考え方が違ったり、うまく物事が進まなかったりしたこともありました。しかし、その中でも視点を変えてその人の立場になって物事を考えてみると、ヒントや答えが見えてくることがありました。そういった意味で、自分の考えがすべてではないことに気づけたことは夢に近づけたのかと思っています。

インターンシップの半年間は長いようで、今振り返ると、とても短いものに感じます。活動をやっていて、時には大変なことやうまくいかないこともありました。ですが困った時には、事務局や同期、サポメンなど、周りにいる人に支えてもらいながら活動することができたので、とても心強かったです。また、自分の興味を活かして活動に取り組むことができました。もし少しでもこの活動に興味があれば参加してみることをお勧めします。

NPO だからこそ地域との繋がりがある！

松本（まつもと）　菜摘（なつみ）（鎌倉女子大学 児童学部 児童学科 2 年）
NPO 法人 横須賀創造空間　まちづくり

Q1

活動場所が横須賀テラスというコワーキングスペースだったのですが、そこでインスタ映え実践講座を企画させて頂きました。以前、担当者の竹田さんがおっしゃっていた「もっと人に踏み込んでみても面白いかもしれない」という言葉を意識し、当日は横須賀の街を被写体に、みんなで試行錯誤しながら参加者の方々と距離を縮めることができました。横須賀の方々は縦と横のつながりが広く、自然とたくさんの方々に関わることができました。

Q2

活動初期の頃「横須賀の街を知る」というところからスタートしたのですが、正直インターンの活動なのを忘れてしまうほど、横須賀を満喫しました。

X JAPAN の hide も愛したという中華丼を食べたり、横須賀で有名なネイビーバーガーはもちろん、迷彩ソフトや三笠焼きなどたくさん食べられて幸せでした。また、JAZZ の演奏を生で見たり、スカジャンを着て街散策など、貴重な体験をすることができました。

Q3

将来の夢は特別支援学校の先生になることです。現在、児童学科に在籍していますが、児童発達臨床の他に初等教育も合わせて勉強しています。子ども達と一緒に、楽しいことや新しい発見を毎日の生活の中で共有できたらいいなと考えています。
そして、稼いだお金で美味しいものをいっぱい食べて、ひたすら寝て、最近は温泉にハマっているので、各地の温泉を制覇し、自分の中に地図をつくるのも夢の 1 つです。

将来の夢：　特別支援学校の先生

活動内容：　横須賀の街を知るための散策、インスタ映え実践講座の企画、運営

Q4

インターンの活動を通して、ライフワークの豊かさ、またまだ私の知らない職業がたくさんあることに気がつき、視野が広がりました。もしかしたら、まだ出会ってない職業に興味が出るかもしれないし、将来子ども達に勉強を教えたいというより、人間形成に関わるような、子ども達の環境を整えていきたいと考えているので、学校の先生にこだわらず、選択肢を広げることができました。

Q5

将来の夢を考えるきっかけに繋がるので、興味ある方はぜひ参加して欲しいです。また、NPO だからこそ地域との繋がりやライフワークの豊かさ、日々の生活では出会えない素敵な方々の身近で学ぶことができます。そして、同じインターンをしている仲間と月 1 回集まる定例会で、自分を振り返る機会があります。活動先はそれぞれバラバラですが、自分一人じゃなく、みんなで頑張っているということを励みに最後まで頑張れました。

Q1：活動を通して、気付いた・成長した！と思うことは？　Q2：今だから言える！活動中のエピソードを教えて！　Q3：将来の夢は？
Q4：インターンの活動を通じて、夢にどう近づいた？　Q5：（読者に向けて）メッセージをお願いします！

想いをわかりやすく伝えられるようになりたい

宮澤（みやざわ）　明日実（あすみ）（湘南学園高等学校 1 年）
昔の遊びを伝える会　文化

Q1

学校で社会科サークルに所属しており、そこで先生からこの活動のことを聞きました。インターンは大学生がするものと思っていたので、高校生でも出来ると知り、おもしろそうと思ったため、参加しました。

インターンでは人に教える機会が多くあったので、人に分かりやすく伝えるということは、少しは上達したと思います。当然ですけど、いろいろな人がいて、一人一人違うことに改めて気が付きました。

Q2

一人でお昼の買い出しに行ったとき、12 人くらのお弁当を買わないといけなくて、買うのに時間がかかってしまいました。そのとき、インターン先の人が手伝に来てくれたことが、うれしかったです。また、ラジオで団体の活動を自分の言葉で伝えられた時もうれしかったです。インターンでは自分のやりたいことと活動内容が一致していたので、楽しみながら活動ができました。

Q3

自分が伝えたいことを人にわかりやすく伝えられるようになりたいです。

また、質問 2 で書いたような、お昼ご飯の買いだしに行ったときに手助けに来てくれた人のように、困っている人がいたら、進んで助けてあげられる人になりたいです。

将来の夢：　進んで助けてあげられる人になる

活動内容：　昔ながらの縁日などのイベントの運営やサポート

Q4

普通に高校生活を送っているだけでは会うことが出来ない大人の方に会って、実際にお話が出来て、とても良い経験になりました。また、人に教えることが多かったので、これも良い経験になりました。

前は知らない人と話すことが苦手でしたが、インターンを通して少しは改善されたと思います。

Q5

活動報告書を読んでいただきありがとうございます。半年間この活動をして、上手くいったこともいかなかったことありましたが、インターンをして良かったと思います。これからも人に上手く伝えれるように頑張ります。

このプログラムで実際に NPO 団体の一員として活動することは、普段できないことなので、やろうか迷っているなら、ぜひ挑戦してみてください。

自発的に動ける人になりたい

塩谷（しおがい）　理紗（りさ）（文教大学 国際学部 国際理解学科 3 年）

NPO 法人 まちづくりスポット茅ヶ崎　まちづくり

将来の夢：　自発的に動ける人。誰かの役に立てる人。

活動内容：　広報物への記事執筆、スペースの貸出業務サポート、イベントの企画運営

Q1

まちスポでは老若男女問わず楽しめるイベントのサポートやまちポッチ通信での執筆などを行いました。それらの活動を通じて、茅ヶ崎が大好きな人たちが茅ヶ崎のために活動をしている団体だと感じました。インターンの活動を終えて、自分が今住んでいる地域のことをもっと知りたい！いろんな人と関わって、いろんな立場の人のことを考えられるようになりたい！と感じるようになりました。

Q2

イベントの準備でチラシの枚数をかぞえて配りに行った時に、小さな雑用でも正確になすことはどんなことにおいても大切だと感じました。今後また単純作業を行うときには、少しでも楽しみを見つけながら行えればと思います。

また、私は元々、人と話すのが苦手でしたが、初対面の人に自分から挨拶する機会が多く、会話を広げていくコツを掴めたように思います。

Q3

このインターンには、いろんな世代、立場の人たちとこうりゅうしたい！、そして様々な人と関わることで将来の就職活動に向けて、自分が今まで気づかなかった自分を知るきっかけになればと思って、このプログラムに参加しました。

私は今まで、誰かに頼って行動することが多かったので自発的に動ける人に変わりたいです。そして将来的には、誰かの役に立つことに自分も携わりたいと考えています。

Q4

企画とかも考え、自分から発信して誰かにわかりやすく伝えられる人になりたい、と思いながら活動してきました。様々なイベントや人との出会い、様々な経験をしたことで、自分の得意分野や苦手分野を見つけて分析することができました。どんな人とも自分から話しかけてお話ができるようにもなって、新しい自分を発見できました。今後も新しいことを考える発想を大事にしていきたいです。

Q5

インターンの活動を通じて、茅ヶ崎、南湖地区、まちスポのことが大好きになりました。私は最後までインターンをやり切ったことで、新しい自分にも出会えました。

「何か一つでもこれをやり抜いて頑張りたい！」と思う方はぜひ参加してみてください。

Q1：活動を通して、気付いた・成長した！と思うことは？　Q2：今だから言える！活動中のエピソードを教えて！　Q3：将来の夢は？
Q4：インターンの活動を通じて、夢にどう近づいた？　Q5：（読者に向けて）メッセージをお願いします！

先輩ワカモノの紹介

簑田（みのだ）　萌（めぐ）

ワカモノ 2 期生。認定 NPO 法人藤沢市民活動推進機構にてインターンを経験。進路に迷い始める大学 3 年時に当インターンに参加し、現在は青年海外協力隊として南米パラグアイでバドミントン指導を行っている。

私は当インターンを通して、自分の中での「選択肢」が増え、幼い頃からの憧れの一つであった青年海外協力隊として活動ができています。様々な問題意識を持ちそして多種多様な経験から社会の問題に立ち向かう大人に出会えることは、当インターンの特徴であり、私たち学生に対して多くの選択肢を与えてくれます。実際に私は、卒業後の進路として、一般企業を経験せずに海外で活動をすることに不安を抱いていましたが、大人の方々と近い距離で活動を行ったりお話をしたりすることによって、人生の進み方に「正解」や「普通」がないことを感じ、自分の道に対して自信を持って進むことができました。

門倉（かどくら）　啓介（けいすけ）

ワカモノ 1 期生。社会人 1 年目。NPO 法人湘南遊映坐でインターンを経験。その後当プログラムにおいて 2 年間サポートメンバーを務める。社会人になった現在も市民活動にかかわり続けている。

将来 CM 制作に携わりたいと思い大学に進学し、映画祭を企画・運営する NPO 団体にインターンさせていただきました。しかし、インターンで多くの人とかかわりを持っていく中で夢が変化し、人と密にかかわる仕事をしてみたいと思うようになりました。なぜなら、インターンをやり遂げたときに、それまでの過程で目にした人と人との助け合い・つながりに魅力を感じたからです。今までお世話になった方々に恩を返していきたい。その気持ちで就職をし、今はなりたい自分に 1 歩でも近づくよう日々精進しています。インターンシップに参加したことで、自分の夢のカタチが変わっていき、より明確になったと思います。

サポートメンバー紹介

本プログラムは事務局と、ワカモノ OBOG による事務局サポートメンバー（通称：サポメン）によって企画運営しております。

この 1 年、ワカモノ 4 期生を支えてくれたサポメンを紹介します！

青木（あおき）　亮平（りょうへい）（中央大学 3 年）

ワカモノ 3 期生。サポメンのまとめ役として、定例会の企画運営やワカモノのサポートを行う。座右の銘は「connecting the dots」。

小山（こやま）　優子（ゆうこ）（文教大学 大学院 2 年）

ワカモノ 1 期生。サポメンのまとめ役及び高校生をメインにサポートを行う。座右の銘は「一期一会」。

今関（いまぜき）　恭平（きょうへい）（日本大学 4 年）

ワカモノ 3 期生。ワカモノ同士やワカモノ OBOG とのつながりが作れるよう企画を行う。座右の銘は「笑う門には福きたる」。

桝谷（ますや）　美月（みつき）（東洋英和女学院大学 4 年）

ワカモノ 3 期生。定例会の企画運営やワカモノのサポートをメインに行う。座右の銘は「七転八起」。

江端（えばた）　佐知子（さちこ）（早稲田大学 4 年）

ワカモノ 3 期生。ブログ記事の作成など、情報発信をメインに行う。座右の銘は「日日是好日」。

活動報告書に寄せて

認定 NPO 法人
藤沢市民活動推進機構
副理事長・事務局長

手塚（てづか）　明美（あけみ）

1998 年 NPO 法の制定をきっかけに、NPO 支援の在り方を柱に、情報収集と発信を進め、NPO を中心とした非営利組織のマネジメント支援、ソーシャルビジネスの起業支援、NPO と他セクターとの連携支援に取り組んでいる。

完全学校週 5 日制の実施が文部科学省の中央教育審議会答申において提言されたのは、1996 年のことでした。学校・家庭・地域社会が相互に連携しつつ、子どもたちに生活体験、社会体験や自然体験など様々な活動を経験させ、自ら学び自ら考える力、豊かな人間性などの〝生きる力〟を育むためと記述されています。

当時、私は地域の子ども会活動や PTA 活動に参加していた時期でしたので、小学校や中学校に保護者が集まり、子どもたちの地域における動きへの対応について先生も交えて、意見交換の回数が多かったと記憶しています。学校に子どもの教育や学習をお任せしていたとは言い切れませんが、多くの保護者は週に一日お休みが増えることへの不安は相当に深かったのです。盛んに議論されたことの中に、地域社会の教育力の在り方がありました。それまで、当然のように学校がお休みする時の教育や学習を支える場所として、地域社会は期待されていました。その期待に応えるように、既存の青少年団体や地域団体だけではなく、地域横断的な活動をする組織や、課題やテーマによって専門的な活動を進めている組織が多く活躍しています。

先日、横浜市内のある大学で、地域の教育力について学生の皆さんに話し合っていただきました。今まで感じたことや思い出したことなどです。50 名ほどの中で、何もないと答えた学生は一人もいませんでした。彼らは既に完全週 5 日制の時代に育まれた年代です。どこかで、地域の誰かと活動などの時間を共有していたのです。そして、学校教育だけでは得られない出逢いを覚えていました。しかしながら、学校という限られた場所での生活になじんでくると、人との関わりは同年代の限られたコミュニティになってしまい、思い出すことも難しくなることが考えられます。現在、多くの教育機関で社会貢献活動への関心は高まってきていますが、やはり勉学を第一の使命と捉えている生徒や学生に向けて、社会貢献活動が必要と推し進める環境は決して整っている状況ではありません。

若い時期の経験は、大人になった時に、何かモノを始める時のハードルを下げます。行動力と柔軟性をたくさん持つ時期に、市民活動に触れることによって、将来社会で活躍する際にたくさんの選択肢を生むことにつながります。高校生を含むワカモノが、できるだけ早い時期に社会貢献活動に触れ、活動に参加し、未来をつくるための要素の一つとして、いつでも思い出すことのできる記憶に残していくことは、持続可能な社会を担うワカモノにとって、「自ら学び自ら考える力や豊かな人間性などの〝生きる力〟を育む」ためにも必要ではないでしょうか。

本年度、本事業の参加学生は 13 名。内、高校生が 6 名でした。プログラムを始めた当初から、高校生も対象としていましたが、いよいよ半数に近くなり、ワカモノ間での多様性も増してきました。成果発表会では、本年度のワカモノだけでなく、前年度までにインターンを経験したサポートメンバーと一緒に作り上げ、また、受け入れ協力していただいた、11 の市民活動団体の皆様やご助言いただいた各所の見識者の皆様をお招きしました。本年度も皆が笑顔で巣立っていったことに感謝します。関係者の皆様、ありがとうございました。

事務局より

- 夢は実現してこそ価値がある。ワカモノ達は、夢に向かって一歩を踏み出します。ぜひ一緒に見守っていただければ幸いです。（東樹 康雅）
- 成果発表会では皆さん凛々しく発表されていましたよ。社会に出て、大輪の花が咲くのを楽しみにしています。（須永 洋平）
- 好き！やりたい！と思う気持ちは大きな原動力になります。このプログラムを通じて自分の気持ちに素直なワカモノが増えますように。（西尾 愛）
- NPO って詳しくはよく分からないですよね？そんな中インターンプログラムに飛び込んだワカモノ達のように、あなたもチャレンジしてみませんか？（青木 亮平）
- このプログラムに参加したワカモノの今後にも、ぜひご注目を＾＾（小山 優子）
- サポメンとして関わることができて本当に幸せでした。来年度以降、更なる大物ワカモノが登場することを期待しています‼（今関 恭平）
- 学生の間にしか出来ない貴重な体験が出来ました。あなたも参加してみませんか？（桝谷 美月）
- これを読んで興味を持ってくれた方へ！学校では体験できないことに触れて、自分の新たな可能性を発見してみませんか？（江端 佐知子）

協力者一覧

助成：　JT　NPO 助成事業

受入団体：
認定 NPO 法人 地球市民 ACT かながわ／ TPAK
NPO 法人 湘南スタイル
NPO 法人 青少年サポート協会
湘南まちいくプロジェクト
NPO 法人 横須賀創造空間
NPO 法人 まちづくりスポット茅ヶ崎
藤沢市民まつり実行委員会
認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構
NPO 法人 ハーモニーインターナショナル
NPO 法人 湘南遺産プロジェクト
昔の遊びを伝える会

広報協力：神奈川大学　山岡 義卓先生／私立大学　柴田 匡啓先生／東海大学　藤巻 裕之先生／東洋英和女学院大学　町田 小織先生／鎌倉女子大学　梨本 加菜先生／湘南学園中学校・高等学校　吉川 謙太郎先生

地域でつながるワカモノ × NPO インターンシッププログラム 2017 活動報告書
ワカモノの夢

発行：　2018 年 4 月
編集責任：　認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構
副理事長・事務局長　手塚 明美
事業担当：　東樹 康雅／須永 洋平／西尾 愛
デザイン監修：　金田 麻沙子
制作協力（ワカモノ）：　池田 実穂／原 明里／青木 亮平／小山 優子／今関 恭平／桝谷 美月／江端 佐知子

発行所：　認定 NPO 法人 藤沢市民活動推進機構
〒251-0052　神奈川県藤沢市藤沢 577 寿ビル 301 号室
電話：0466-53-7366
ホームページ：http://f-npon.jp/
メール：npoipg@f-npon.jp

本書の一部あるいは全部について、無断で転載・複製することを禁じます。
商業目的による本書情報の利用を禁じます。